



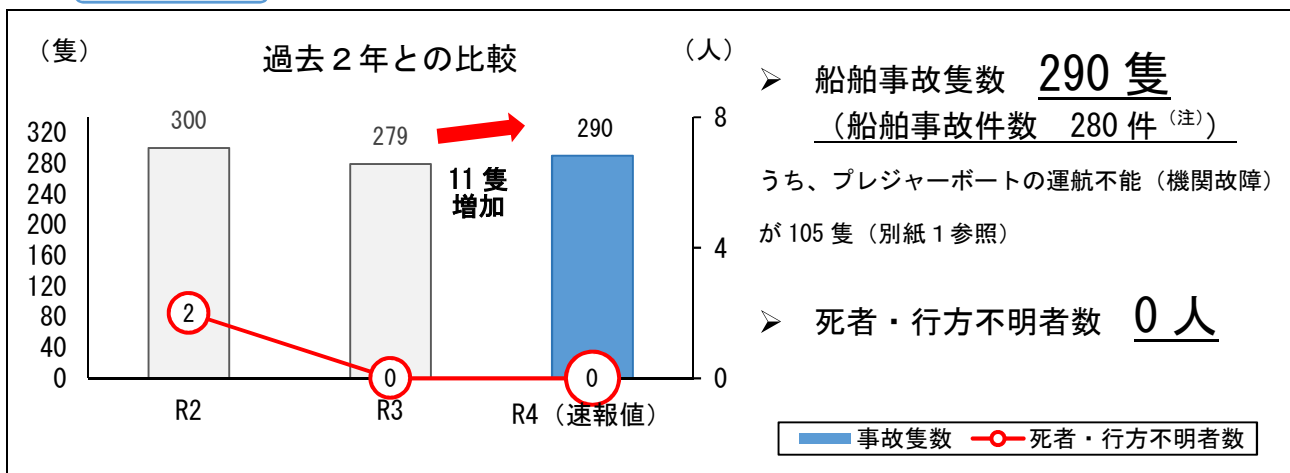
令和4年9月9日
海上保安庁

夏季(7-8月)の船舶事故・人身事故発生状況(速報値)

マリンレジャー活動に伴う事故発生状況

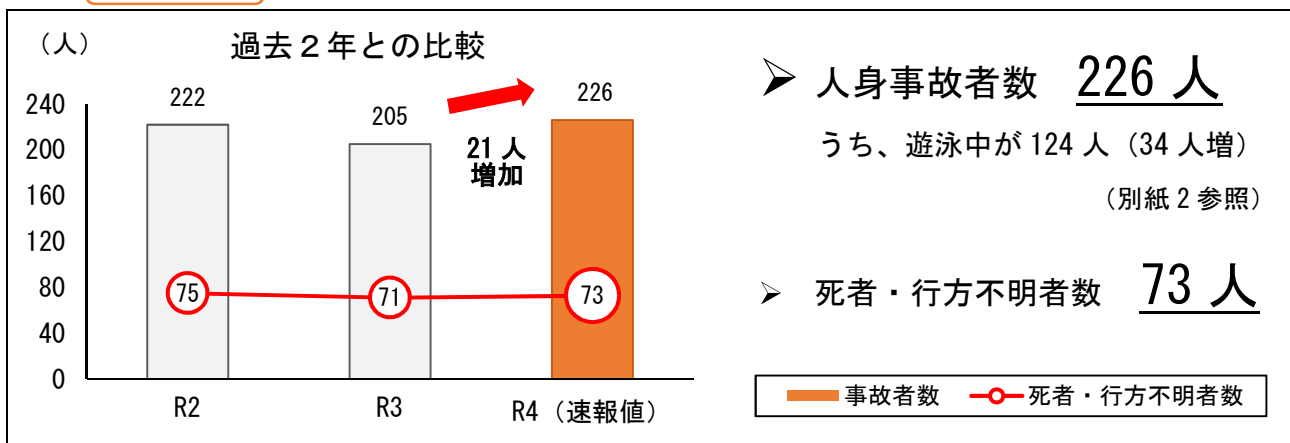
- 船舶事故隻数(プレジャーボート及び遊漁船)は290隻(前年比 11隻増)
死亡・行方不明者数は0名(前年比 増減なし)
- 人身事故者数(遊泳中、サーフィン中、釣り中等)は226人(前年比 21人増加)
死亡・行方不明者数は73名(前年比 2人増)

船舶事故



(注) 船舶事故件数は、複数の船舶によって発生した船舶事故を1件として計上している。

人身事故



秋に向けた海難防止対策

別紙3参照

海上保安庁では、10月1日~31日までの間を「秋季安全推進活動期間」と定め、

- ・小型漁船や小型遊漁船の衝突
- ・岸壁や防波堤からの釣り中の海中転落

の防止に重点を置いて、関係機関や関係団体と連携して海難防止活動を行って参ります。

別紙1 プレジャーボートの事故発生状況（7～8月）

主な傾向

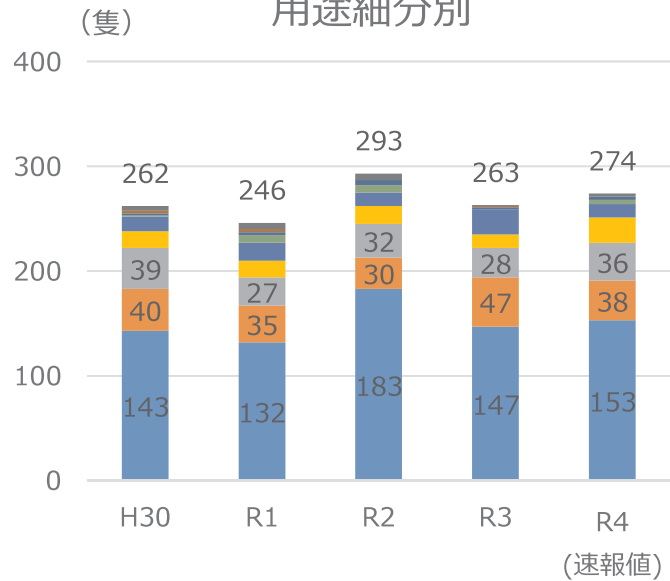
プレジャーボートの事故隻数は274隻と平年並みであった。
 しかし、月別の発生状況を見ると、7月は138隻（H30～R3の平均106隻）と平年より約30%増加しており、逆に8月は136隻（H30～R3の平均160隻）と15%減少している。旬間毎で見れば、7月は中旬に事故隻数が減少しているが、上旬と下旬では増加している。8月はお盆時期である中旬を除き、平年より事故隻数は減少している。

推定要因

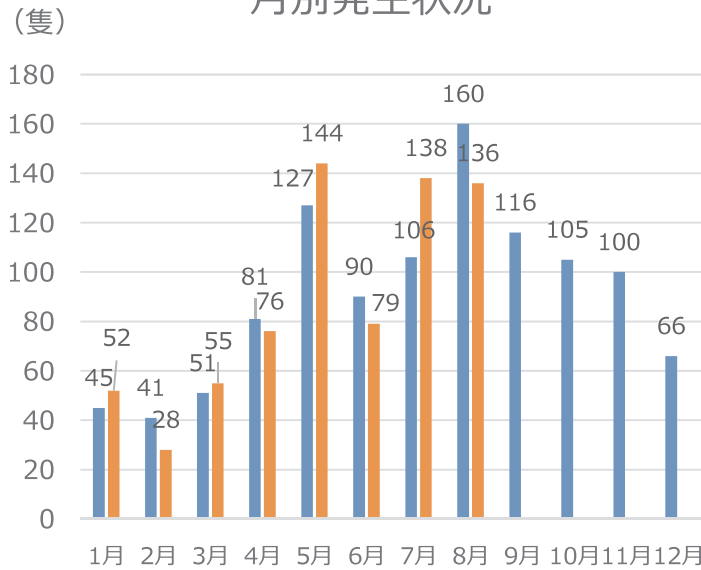
7月に事故隻数が増加した要因は、平年より好天が多かったことやコロナによる行動制限が緩和されたことでマリンレジャーをする人が増加したためと推定される。8月は逆に大雨等の影響により、平年より好天が少なかったことから、お盆時期を除き、全体の事故隻数は例年より減少したものと推定される。

詳細

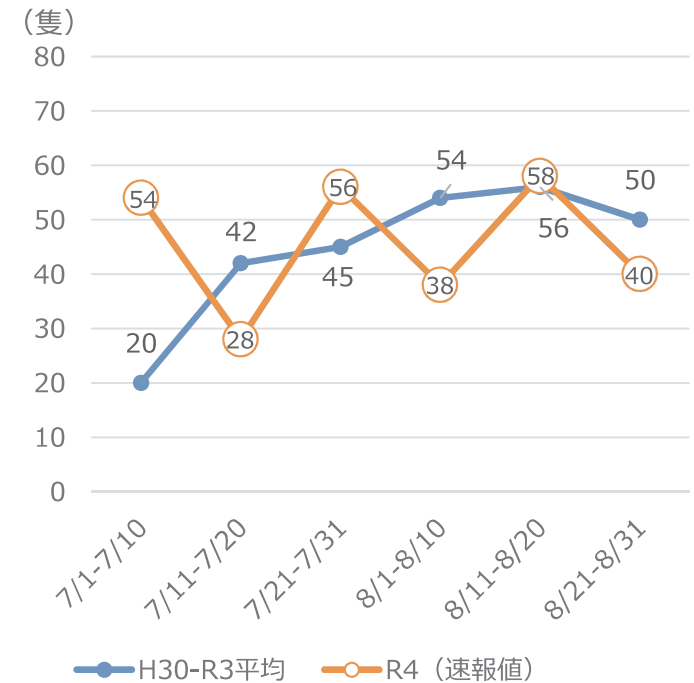
用途細分別



月別発生状況



旬間毎の発生状況



- モーターボート
- 水上オートバイ
- クルーザーヨット
- ミニボート
- クルーザーボート
- カヌー
- ゴムボート
- ディンギーヨット
- その他

■ H30-R3平均 ■ R4(速報値)

● H30-R3平均 ○ R4(速報値)

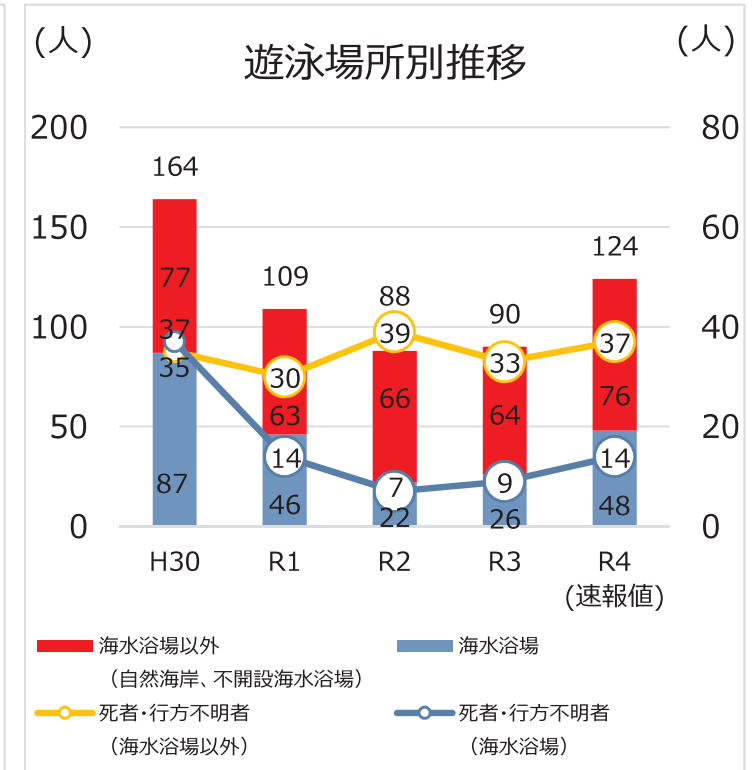
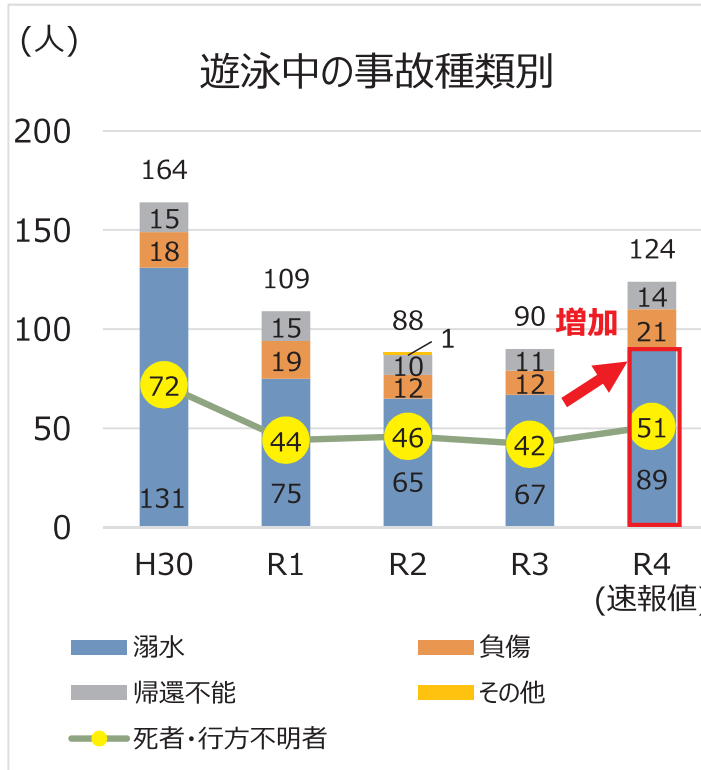
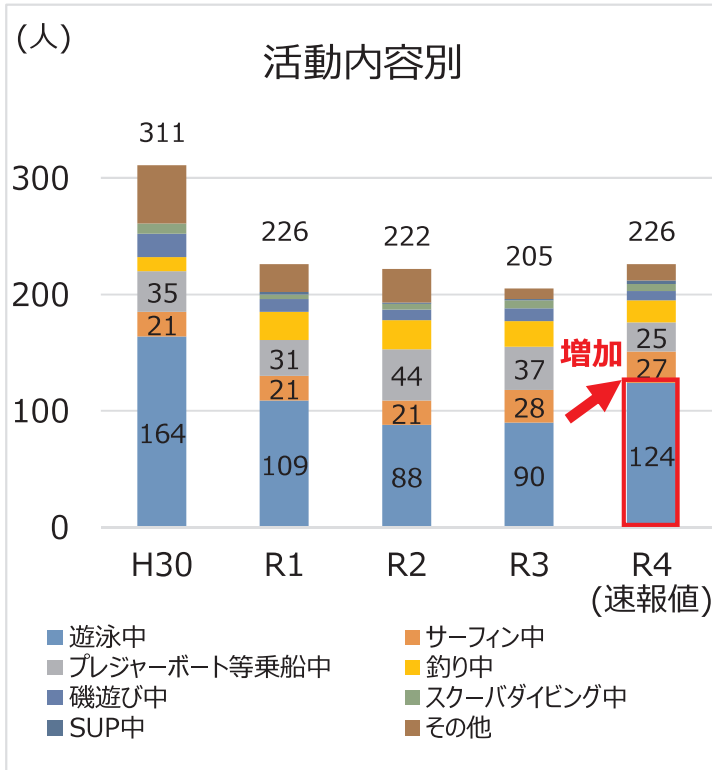
主な傾向

マリンレジャー活動に伴う人身事故者数226人を活動内容別にみると、遊泳中の人身事故者数が増加している。また、遊泳中の事故種類別を見ると、例年同様、溺水が最多であり、かつ、令和4年は昨年に比較して22名（約33%）増加している。遊泳者の場所別にみると、海水浴場での人身事故者数が昨年よりも22名増加しており、顕著である。

推定要因

遊泳中の人身事故者数が全体的に増加した要因は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限が緩和され、これによりマリンレジャーをする人が増加したためと考えられる。また、海水浴場での人身事故者数が増加した要因として、新型コロナウイルス感染症対策で昨年まで不開設であった海水浴場が開設されたことにより、海水浴場の利用客が増加し、結果として人身事故者数の増加に繋がったと推定される。

詳細

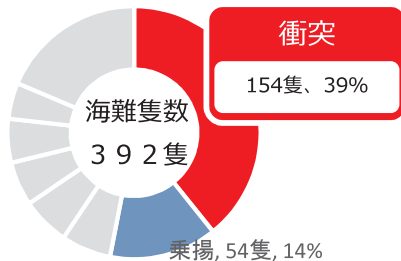


漁船・遊漁船の船舶事故発生状況及び防止対策

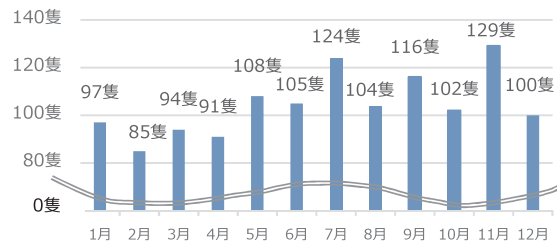
昨年発生した事故種類別では衝突が最も多く、漁労作業に傾注し見張りが疎かになるなど、不注意による事故が多く発生しています。過去3年間では、7月から11月にかけて漁船・遊漁船の事故が多く発生しています。

また、当庁では、冬場における気象・海象の急激な変化による漁船の事故を未然に防止するため、全国漁船安全操業推進月間（一般社団法人大日本水産会が主催）と足並みを揃え、10月1日～31日までの間を秋季安全推進活動期間として定め、漁船や遊漁船に対する安全啓発を行っています。

漁船・遊漁船の船舶事故種類別発生状況 (R3)



漁船・遊漁船の月別船舶事故隻数 過去3カ年 (R1~R3) 累計



安全に帰港するための留意事項

- ✓ ①「常時」適切な見張り
- ✓ ②気象・海象の把握
- ✓ ③ライフジャケットの着用

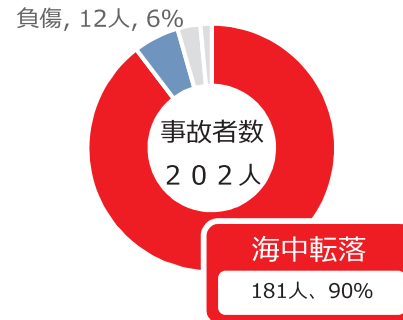


釣り中の人身事故発生状況及び防止対策

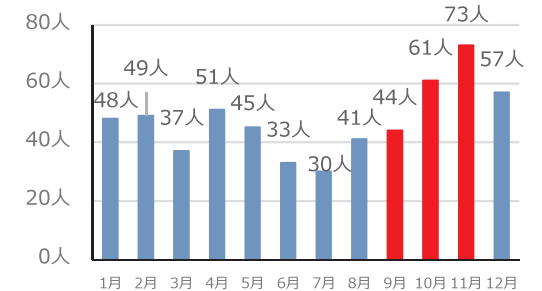
昨年発生した事故種類別では海中転落が約9割を占め、不注意による転倒等の事故が多く発生しています。

過去3年間の傾向は、8月以降に釣り中の事故が増加しており、11月が最も多くなっています。

釣り中の人身事故種類別発生状況 (R3)



釣り中の月別人身事故者数 過去3カ年 (R1-R3) 累計



釣りを安全に楽しむための最低限必要な装備

- ✓ ① ライフジャケット
- ✓ ② 釣り場に応じた履物
- ✓ ③ 通信装備 (防水ケース入り携帯電話)

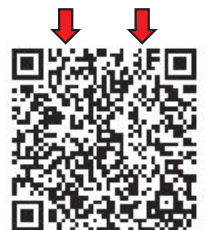
釣りを安全に楽しむための留意事項

- ✓ ① 無理をしない (天気予報の確認と体調管理)
- ✓ ② 単独行動をしない
- ✓ ③ 釣行計画を第三者に伝えておく
- ✓ ④ 立入禁止区域に入らない

のポイントを守り「安全第一」で楽しみましょう。

Water Safety Guide (釣り編) でより詳細な安全情報を掲載しています。

Water Safety Guide (釣り編) QRコード



別紙4 夏季（7～8月）のマリンレジャー活動に伴う船舶事故・人身事故発生状況
（5年間の推移・種類別）

1 船舶事故

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年 (速報値)
プレジャーボート※1（隻）	262(5)※2	246(4)	293(2)	263(0)	274(0)
・運航不能（機関故障）	108(0)	78(0)	122(0)	100(0)	105(0)
・運航不能（その他）	45(0)	54(1)	58(0)	38(0)	48(0)
・乗揚	31(0)	37(0)	30(0)	24(0)	32(0)
・運航不能（推進器障害・舵障害）	27(0)	24(0)	30(0)	34(0)	28(0)
・衝突	18(0)	28(0)	19(0)	31(0)	21(0)
・転覆	14(3)	6(2)	9(0)	6(0)	10(0)
・その他	19(2)	19(1)	25(2)	30(0)	30(0)
遊漁船（隻）	12(0)	10(1)	7(0)	16(0)	16(0)
・乗揚	2(0)	2(0)	0(0)	2(0)	5(0)
・衝突	5(0)	6(1)	3(0)	8(0)	4(0)
・運航不能（機関故障）	2(0)	1(0)	0(0)	1(0)	2(0)
・運航不能（その他）	1(0)	0(0)	2(0)	0(0)	2(0)
・運航不能（推進器障害・舵障害）	0(0)	0(0)	1(0)	2(0)	2(0)
・転覆	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
・その他	2(0)	1(0)	1(0)	3(0)	1(0)
プレジャーボートと遊漁船の合計	274(5)	256(5)	300(2)	279(0)	290(0)

2 人身事故

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年 (速報値)
人身事故者数（人）	311(105)	226(74)	222(75)	205(71)	226(73)
・遊泳中	164(72)	109(44)	88(46)	90(42)	124(51)
・サーフィン中	21(3)	21(1)	21(1)	28(2)	27(3)
・プレジャーボート等乗船中	35(4)	31(2)	44(4)	37(4)	25(0)
・釣り中	12(6)	24(17)	25(15)	22(15)	19(10)
・磯遊び中	20(10)	11(6)	9(6)	11(5)	8(5)
・スクーバダイビング中	9(5)	4(3)	5(3)	7(3)	6(3)
・SUP中	0(0)	2(0)	1(0)	1(0)	3(1)
・その他	50(5)	24(1)	29(0)	9(0)	14(0)

※1 プレジャーボートの内訳：モーターボート（ミニボートを含む。）、クルーザーヨット、水上オートバイ、クルーザーボート、ティンギーヨット、カヌー

※2（ ）内の数値：死者・行方不明者